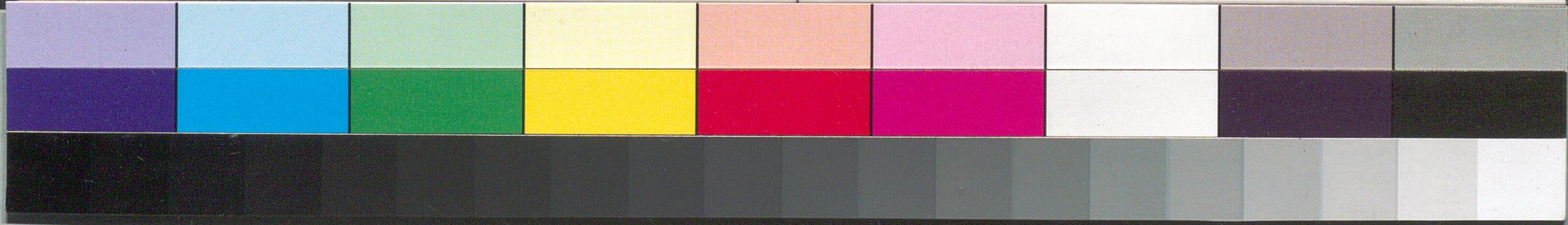


哲學之神髓

一名 佛教哲學玄義



哲学之神髓

目錄

講述開題 第七節

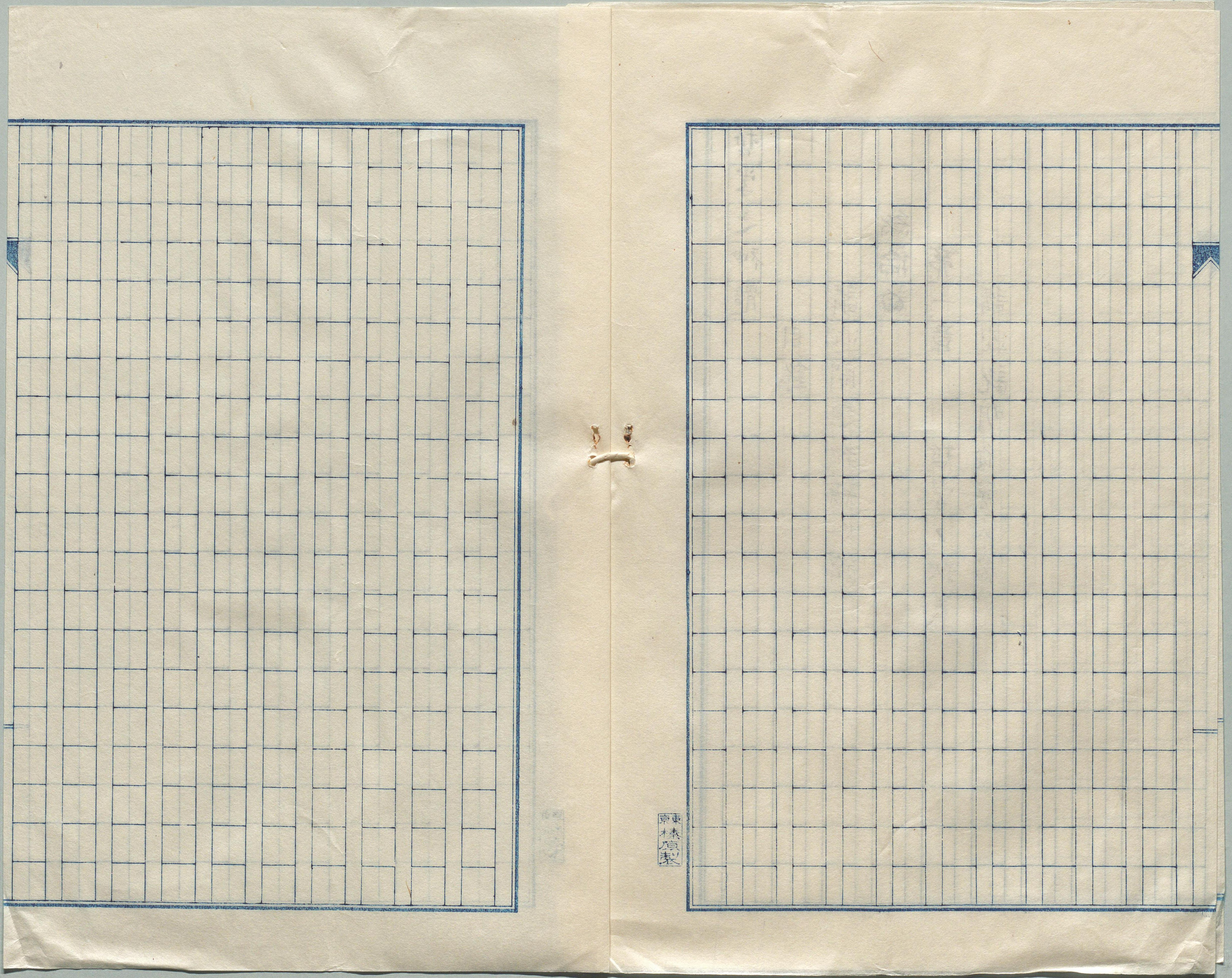
緒論

第一章

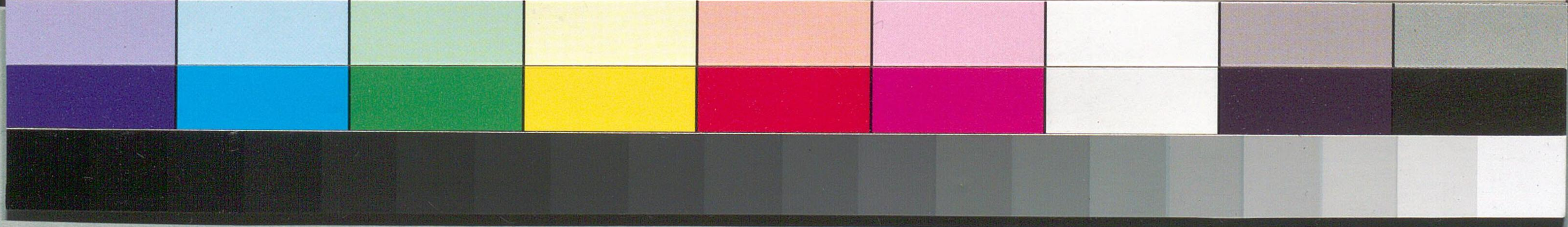
哲学ノ定義

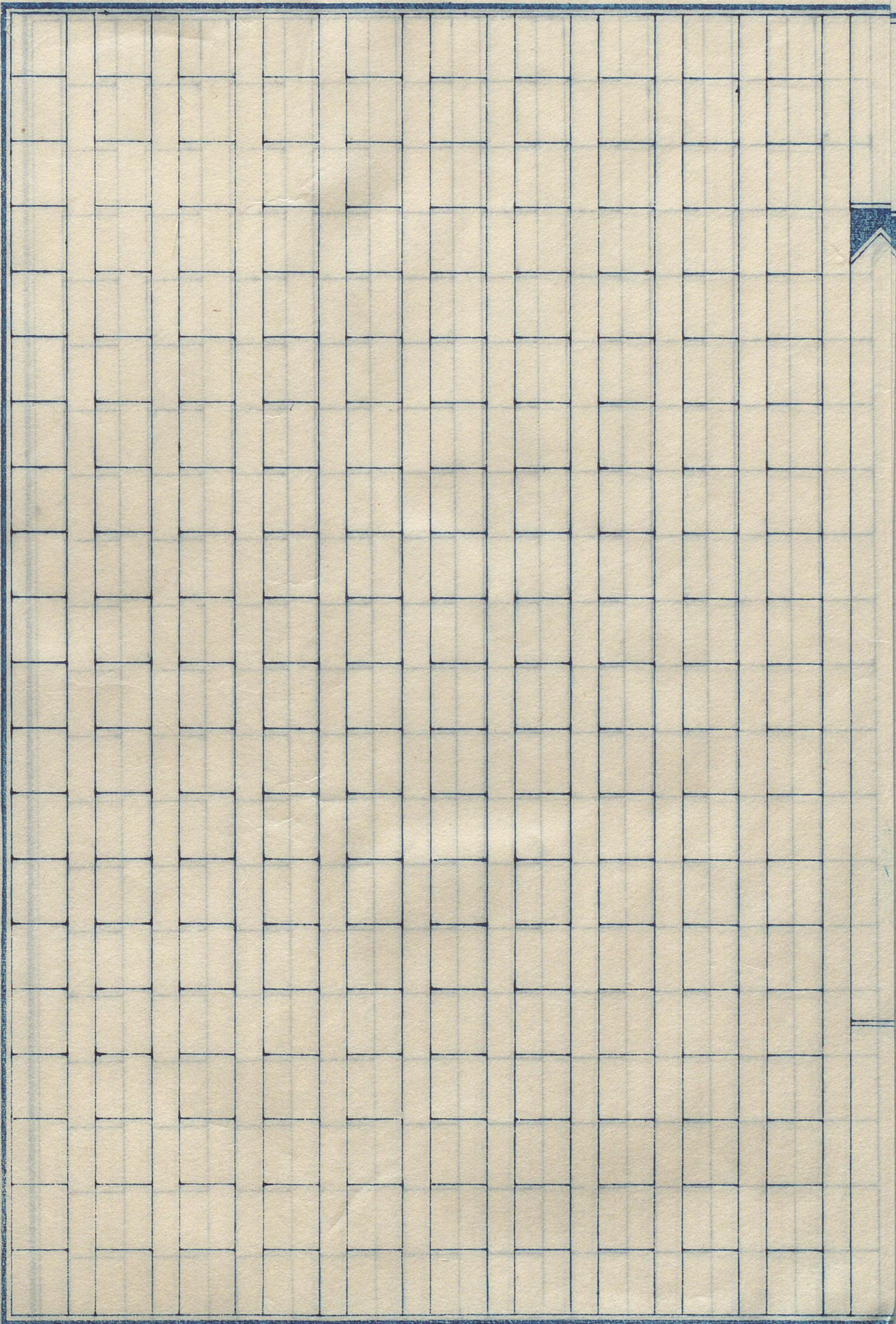
講述說明 從第八節

東洋堂製

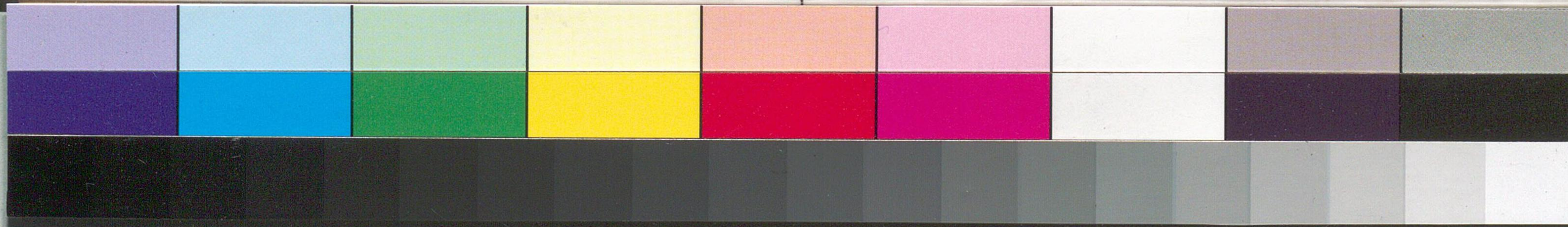
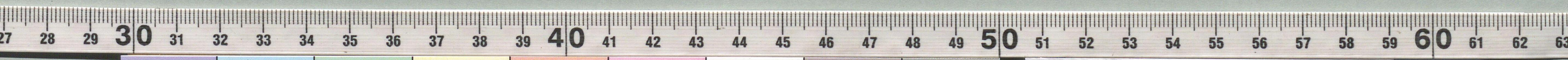


東
林
原
表





東
林
堂
製



国立国会図書館 渡辺国武関係文書(その2) 1079

佛敎哲学玄義

渡邊國武 講述

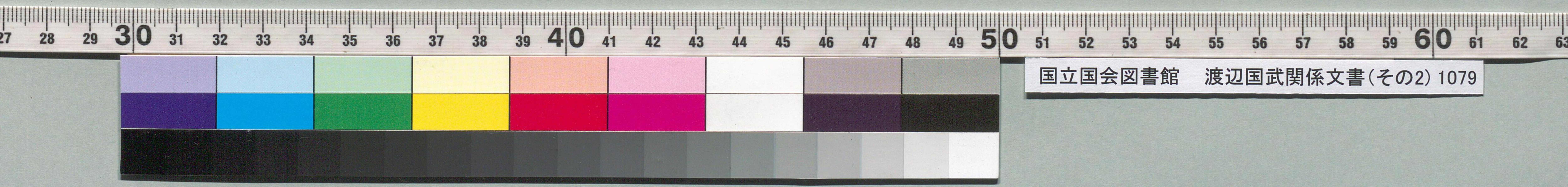
講述開題

第一節 余と佛敎哲学玄義講述の本題と入
く章と逐ひ第と分つて系統的組織的の之と
講述れる子先つて本講述と佛敎哲学玄義と
名つけし所以とそして余の佛敎哲学研究の
際なる所の方法意見は就く其大要を一言し
て置くの必要の有る

佛敎哲学玄義と今から二十餘年前の印度

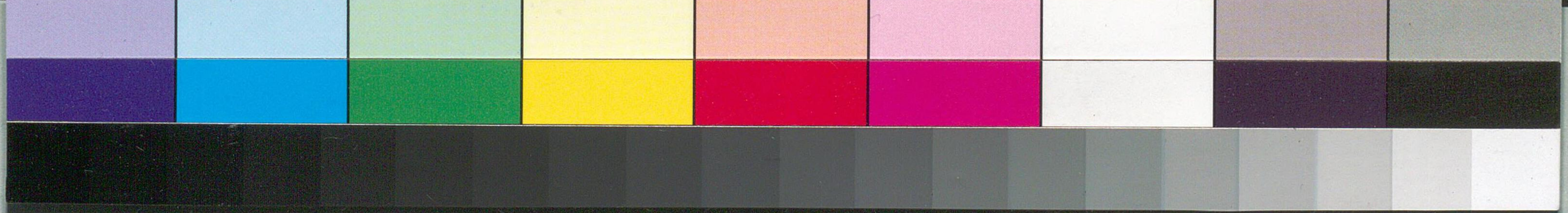
の釈迦牟尼佛陀の首唱せり此の所の佛敎因
縁生の哲理の中は包含せらるる其中の潜在し
て居る所の隠きとる深い意味と云ふはと下
英語で言へばゼミナール、レクチャー、オファ、ブツダイカル、フ
ロソヒ、獨逸語で言へばダス、ゲハイムニッス
ブルヂェシオン、フイロツヒ、佛敎で言へばル、ス
レト、ドウ、フイロツヒ、ブツダイツトと言ふやうな
意味の有る
第二節 さて此佛敎哲学玄義の研究に盡し
し眼あり見よと佛敎哲学を實に廣大無邊甚

東林堂製



深微妙なる哲学を有り又宗教を有る従前東
西古今の哲学界宗教界を有りと布らゆる宇
宙觀人生觀即ち唯心論唯物論一元論一元論
有神論汎神論無神論無宇宙論等々言ふに及
び心理物理等一切科学の原理に至るまで
皆此佛教哲学なる一系統の中の一契機一關
節として完全な互相聯絡の關係を保ち各自
立脚の地位を占めて居るのである
志のしなから此佛教哲学の玄義を發見する
の印度古代文学發達の事情の大体も通
し佛教中なる三藏即ち經律論記述の体裁をも
達觀通視し之を加ふるに此佛教と首唱し創
設せしむる所の釈迦牟尼佛陀と凌駕し若く
と匹敵平行れる程の大見識大慈悲大度量大
膽力のそくともなりぬとて従前の佛教哲
学研究者のやうに經論の表面を現はれし所
の言詰文字の意味を拘泥して居るやうな
ところとして此佛教哲学の玄義即ち真精神
眞骨髓を完全な抉摘し出しえかき之を咀嚼
玩味し得るものと出来得可きものを以

東林寫本



所を多く皆佛菩薩の玄妙不可思議なる神通
 妙用として記述して有る法華経維摩経など
 し、皆しやく可記述に下有るなり佛敎信者々
 此雄大莊麗なる叙事詩的文章と事實とを以
 て之と崇拝し歐羅巴の佛敎研究者と之を以
 き東洋固有の^台妄信的小説として其中より釈
 迦牟尼の^歴真の事實を採り出さうとして居
 るものなり下此雄大莊麗なり叙事詩の中より佛
 敎哲學の玄義の色合せらるるものと云ふこと
 と^{ありとも}考つぬの^{ありとも}不有る

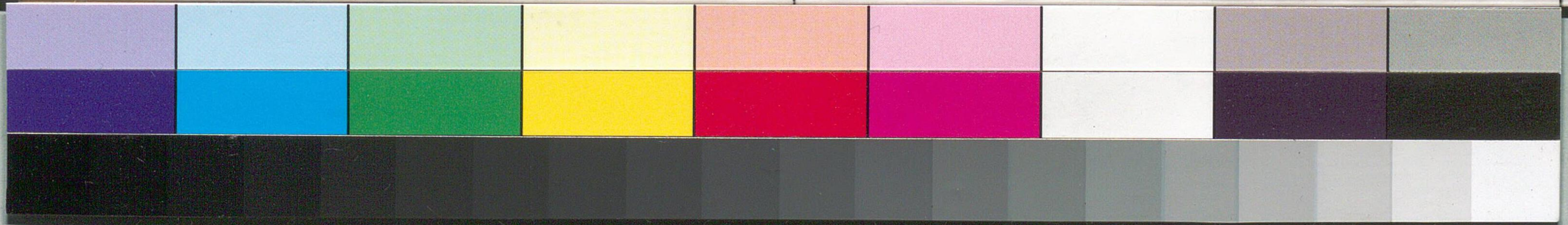
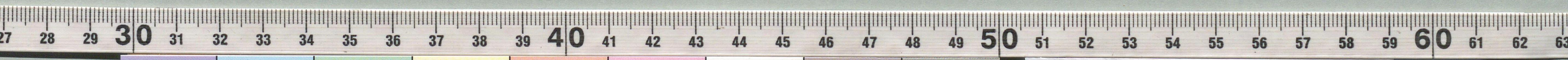
第^二章 然らるる此雄大莊麗なる叙事詩をい
 つの^二頂^二誰が因る記述せらるるものと云ふこと其
 此と一人^二ヤナ一人一時の考ふら起つとあること
 とを多く數回佛敎の^二偏^二纂^二やら大乗小乗各部論
 禱の^二間^二み^二自^二ら^二完^二成^二して此の如く^二発^二達^二し^二果^二つ
 ぶりの^二下^二有^二る^二け^二も^二其^二中^二に^二色^二合^二せ^二ら^二る^二て
 有る所の佛敎因縁生の^二哲^二理^二を^二呈^二し^二て^二終^二始^二一
 貫して^二分^二直^二の^二破^二位^二弊^二障^二を^二見^二る^二可^二し^二弊^二障^二を^二い
 と断言して宜しい夫のへいげん^二の^二左^二掌^二なる
 るスト^二う^二ら^二る^二が^二基^二督^二敎^二の^二四^二福^二音^二を^二記^二述^二せ^二る

東林原表



佛敎以外なる要羅門のミトウ即ち經典を
 未得るふけ簡潔な規則又を信條と述べても
 の下文法をも何等の方法を以て除き得可
 才言語を悉く之を省略して符號なりと以て
 之に代へる有るを註釈の無くても解を
 るおとの出来ぬやうなものを英訳法なりと
 翻訳せらるる有るヴェタニタミトウキト皆此
 体裁不有る無るは佛敎の修多羅即ち經典を
 之と異つて大般若經の六百卷華嚴經の八十
 卷乃至隨分巻帙浩翰なりのあるる其中の徒
 々既説偈白なりと言ふて散文下言ふとちと
 と再い頌文下説て有る所を見ればリツと續
 世に敷簡潔なるミトウ即ち經典と漸次敷
 一とりのるも知れぬ
 所下佛敎中の三藏即ち經律論三言一を律を
 四分律又を梵經の類下佛敎の禁戒即ち實
 行上の禁令不有るのら之と除き修多羅藏即
 ち經典を佛敎の信條なりと直説法にさらし
 と説いてその不阿毗達磨即ち論部を佛敎の
 中ま説いて有る所の佛敎の信條なりと互を

東林原製



所々多くも実事非にして多くも叙言的の待てある寓言比喩カレ

此寓言比喩なり此叙事詩と一人若トくも若

千人の故さらし意と用ひて信口傳若くも撰せし所も非

れして當初以来基督教會一般の信念的中傳

下有つとと三言ふやうなものと云ふとのと

一ケルの哲学と以て基督教の経典子代や

うと云ふ大山師氣を有つた其四福言願を記述し

と所を叙事詩のやうなものであると考へ

のと大に参考し可き點である

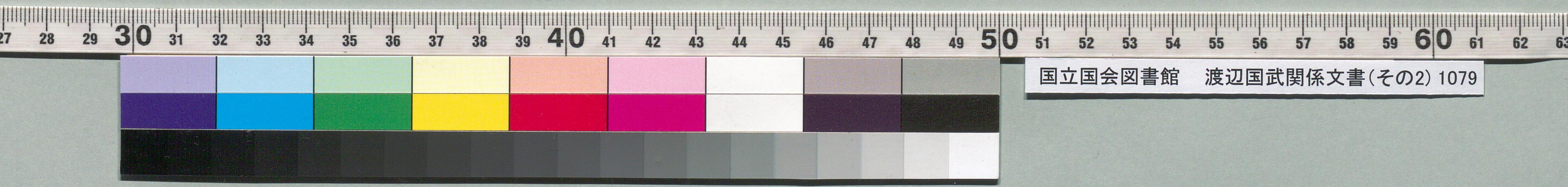
第六節 そこを前も言ふと如く経律論三

藏の中の倫節と經典の意味を解説しよりの

不有るより經典をも併菩薩の玄妙不可思後

なる神通妙用とす

東洋原製



て此の其徳合聖字を以て殆んど同一の事
を企てて失敗の後うらうら其目的の正當
からざるを非難して其方法の適當からざる
りしを坐せしもの
第二に本講述の方法を執る其大要を一言
せんといふこと

東林原家

佛敎哲学玄義

渡邊國武 講述

講述開題

第一節 余ハ佛敎哲学玄義講述の本題ヲ入
テ章ト分リテ節ト逐ムテ系統的組織ト之ヲ
講述スルニ先トシテ本講述ト佛敎哲学玄義
ト名づけシ所以トスシテ余ハ佛敎哲学研究
ニ際スル所ノ方法意見ヲ就テ豫メ其大要
ト一言シテ置くノ必要ニ有ル

佛敎哲学玄義トモ今ヨリ二十餘年前ニ印度

ノ釈迦牟尼佛陀ヲ首唱シ創設セラセシメ所ノ

佛敎哲学ノ中ニ包含セラレ潜在シテ居ル所ノ深

イ意味ト云ふ事ト有ル

第二節 さて此佛敎哲学ノ玄義ヲ研究シ盡

シ小眼ヲ見ルニ佛敎哲学も東西古今ニ比

類無キ廣大無邊甚深微妙ナル哲学ナリ又宗

教ナリ不有ク從前東西古今ノ哲学界宗教界

ニ於ケル有リト有ラハ宇宙觀人生觀即チ

唯心論唯物論一元論二元論無神論無宇宙論

有神論汎神論ナトモ言ふニ及ハバ心理学物

東林堂

とすろのふ有く只哲学ふを主觀的の理會
宗教の容

東橋原製

緒論

第一章

哲学ノ新義

哲学ハ全宇宙一切萬有ノ實在ト其全宇宙一切萬有ヲ表現スル所ノ理法ト其表現ニタル所ノ現象ノ状態ト其吾人々類ノ生存活動ヲ規定スル所ノ規範トヲ研究スルノ学ナリ。

講述説明

第八節

凡そ一科の學術と講述せらるるものと其

講述の目的範圍を明せらるる為め、先づ其_{學術の}新義

と定むるの必要の有るの下有るを以て

より精密の言へば一科の學術の新義を其學

術全体と講述し畢りたる後、之を明瞭に

之と解し得可きものなるを以て、何れも或る

學の如きも其研究せる所の對象を全宇宙一

切萬有の總体とすべし其意味を以て廣汎

な有る所を以

東橋原製

機の活動を轉を有ると云ふよも明瞭は了解せらるゝ

の不有る

第六節 然るに論部を前小言ふ如く經典

の中に包含せらるる居る所の意味を解釈を

ると以て其本分として居るりの不有る有り

隨分骨を折る釈り易いやるに解釈しこの不

有るが惜しいと云ふを經典に説く有る所の

雄大莊麗なる叙事詩的叙述の事実と半を玄

妙不思議なる解菩薩の神通妙用として崇拜

し半を法尔自然は真如自体に必然として具

有る所の力用契機の理法として説明して

居る有り印度の本國に流る馬鳴龍樹提婆無

着天親などの諸大菩薩も皆此三師の中間に迷妄行

徨して居らざると言ひぬを知らぬ別して支

那東漸の後天台摩訶言禪の諸師を其

哲學的方面の研究に至ると隨分精緻な點ま

不達しし所も有るけむや或り一面よを

雄大莊麗なる叙事詩的の事實と解菩薩の玄妙

不可思議なる神通妙用として崇拜し一面よ

を法尔自然真如自体の理法として説明しや

東林堂製

佛敎哲学玄義

渡邊國武 講述

講述開題

第一節

余を佛敎哲学玄義講述の本題に入

了節と分つる系統的との講述は先づ

る本講述と佛敎哲学玄義と名つけしる所以

と余の佛敎哲学研究の方法意見を一言して

置くの必要の有る

佛敎哲学玄義とを佛敎哲学の中へ包含せら

ざる潜在して居る所の玄妙不可思議なる深

い意義と云ふことと有るがす此佛敎哲学

の中へ包含せらざる其中へ潜在して居る所の

玄妙不可思議なる深い意義と生るるを従前

印度支那及び日本の佛敎哲学研究者が採り

来つたやうな表面に現はれし所の言語文句

なるもの拘泥して居るとして釈する非と不

なるもの又歐羅巴人の中へ生るるサンスクリット即

ち梵文の文法語法より研究して居るものも

少くその表面に表はれし所の言語文字に

拘泥して居るものと一層甚しきので有るもの

東棧原製

utra
siv

又近來英佛佛の歐羅巴人の中子サンスクリット即ち梵
 文の意味文法语法より吟味して佛教を研究
 して居るもの少く無い。是も亦やちり表面
 に見られし所の言語文字なりと拘泥せるは
 とも一層甚しみの不有る可ら。是等の人は
 ともいふ。佛教哲学の玄義の新ある可き道理を
 此心の不有る
 第三節 ところ印度古代文学發達の歴史を
 ら言へば印度最古の讚美歌とも言ふ可き四
 吠陀の編纂經典の編纂は維ズブラフマナの編纂即ち婆羅門書の編纂有
 り。ウパニシャッドの編纂即ち奧義書の編纂有る。シユトラの編纂即ち
 經典の編纂有る。アラニヤカの編纂即ち森林書の編纂有る。前後諸
 緯の編纂眞實雜出隨分混雜して話の編纂の不有るを其れ
 とす。印度古代文学史の編纂は譲つて姑らく之を省き
 佛教哲学玄義の研究に必要なる事柄のこゝに
 就く之を言へば此各種の記述の中をシユトラ
 と言ふものを漢譯大藏中の所謂修多羅即ち經
 典若しくは契經のものと有る。あてシユトラも
 シユトラ即ち維ズと言ふ意味の動詞より轉化し
 たるものなる無して其記述の体裁あり言へば

東林堂製



其の人の人

らとては 併教哲学の云義が 新る可き道理の

その

従前より研究の有益と此の如く上下教

東西古今の 併教哲学研究者の中 一人も 今

より二十餘年前に 釈迦牟尼 併教の發揮せら

れし所の 因縁生の 哲理の 眞精神眞骨髄と完

全に 叩き出し 充ふ之と 咀嚼玩味し 其

中の 包含せらるる 其中に 潜在して 居る所の 東

西古今の 哲学界 宗教界に 有りと 有りぬる 各

種の 宇宙觀 人生觀と 皆其用の一 際節一 契機

として 其互相の 聯絡各自の 立脚地と 系統的

な 組織し 統一する 一之を ありの 一之を せつ 一之を のと 実情

を 似て 弟を 有ると 言は ぬと ならぬ

第二節 併教と 修多羅と 毘奈耶藏と 阿毘達

磨派との 三藏を 叙して 叙述 せらる 有る 修多

羅派と 経下有る 毘奈耶藏を 律下有る 阿毘達

磨派と 論下有る 此経律論三藏の中を 律を 四

分律又と 梵經の 類に 併教の 禁戒即ち 実行

的方面の 禁令下有る なら 姑らく之と 除き 修

多羅派即ち 経藏と 三子の 何下有る ありと 言

へを 併教の 趣意と 直説伝 よ みる なら くと 説く

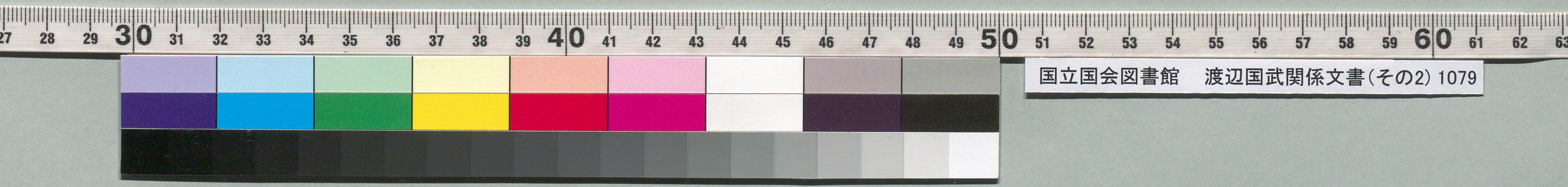
東林堂製

理学なり一切科学の原理に至るまで皆此
併教哲学なる一大系統の中の一契機一關節
として完全は其系統中を把持包含せらる融
合調和せらるて整然として其互相關係の聯
絡を保ち其各自立脚の地位を占領して居る
の不可有るを今日のみならず世界文化交通の非
常に達達として時勢を在るを宇内一般の宗
教界哲学界^{の上}に翱翔雄飛して一世を風靡して万
古と震荡をる程の大勢力を振いぬをならぬ
道理下有るのみならず行ふ居らぬのを全
く研究の足らぬを有る全く併教哲学の
第三節^{全く}を研究し盡さぬをらの事有る
と言いぬをならぬ
第三節 ところ此併教哲学の玄義を研究し
盡しよと此併教哲学を首唱し創設せらるる
所の新迦牟尼佛陀を凌駕し若く之と匹
敵平行せる程の大見識大慈悲大度量大膽力
を以て懸らぬをならぬの不可有るのみ従前支
那日本^の併教^{哲学}研究者を印度古代文学を
違の事情とも知らず又併教中なる三藏即ち

東洋複製

経律論記述の体裁と考へて超邁雄逸なり
大見識大慈悲大度量大膽力を固より無く只
経論なるの表面に現はれし所の言語文字の
意味を拘泥して古人の口真似をして居るを
うり不有る又近來英佛獨なとの歐羅巴人の
中よりサニスクリト即ち梵文の意味文法諸法
あり吟味して佛敎哲学の真趣味と研究して
居るものも少く無い。是も亦やとり表面に
現はれし所の言語文字なりを拘泥するはと
と一層甚しいの不有るうら是等の人はと
ても佛敎哲学の玄義即ち佛敎哲学の真精神
眞骨髓を完全に扶擣し出して充分に咀嚼玩
味はるあとの出来得可き道理を無いの不有
る
第四節 佛敎哲学の玄義と研究はる為め
印度古代文学發達の歴史と取り調へて見る
子印度最古の書印度古代の讚美歌とも言ふ
可き四吠陀經典の編纂に繼ぐ婆羅門書即ち
ブラフマナの記述有り森林書即ちアラニ
カの記述有り奥義書即ちウパニシャトの記述

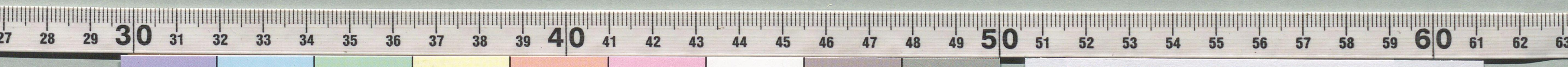
東洋原製



全阿含を教百
種の小部のま
と集めてのま
有る可

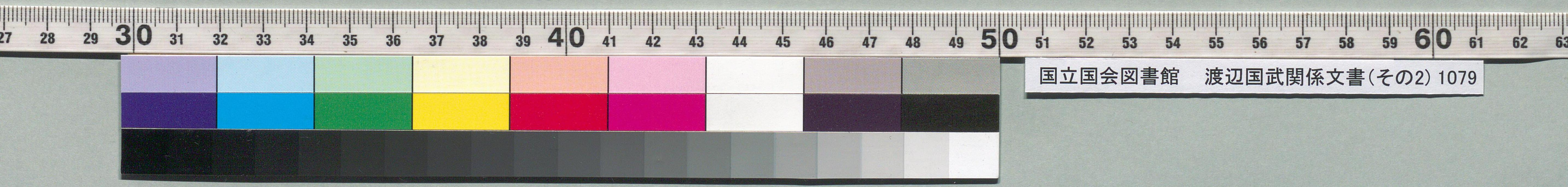
述有り經典即ちこの種の記述有り新古錯綜
眞實雜出其穿鑿を隨分面倒な話不有る可其
以て印度古代文学史の研究に讓らざる之
を省き今を佛敎哲学玄義の研究に必要なる
部分のその就之と言つて此各種の記述の
中をこの種と云ふのを漢譯の大藏經を修多
羅即ち經典若しくを契經のよとて有て語原
と云ふ即ち経フと云ふ意味の動辭あり轉化
しよのしやと言ふありと下有る而して其記述
の体裁あり言へる佛敎以外なり各宗敎各哲
学の記述を出來得るふけ簡潔に其教義を
述しよの下文法を何等の方法を以て
略し得可き言語を悉く之を省きて符號を
を以て之を代へる有るを註釈を無くして
其意味を了解するよと出來ぬやくもの
を今英獨語を翻訳せられたる所の味
檀多シトラ等皆此体裁不有る
然るに佛敎の修多羅即ち經典之と違つて大
日經は十萬頌の廣本の中より三十頌を譯出
し華嚴經十萬頌の廣本の中より四萬五千頌

東林堂製



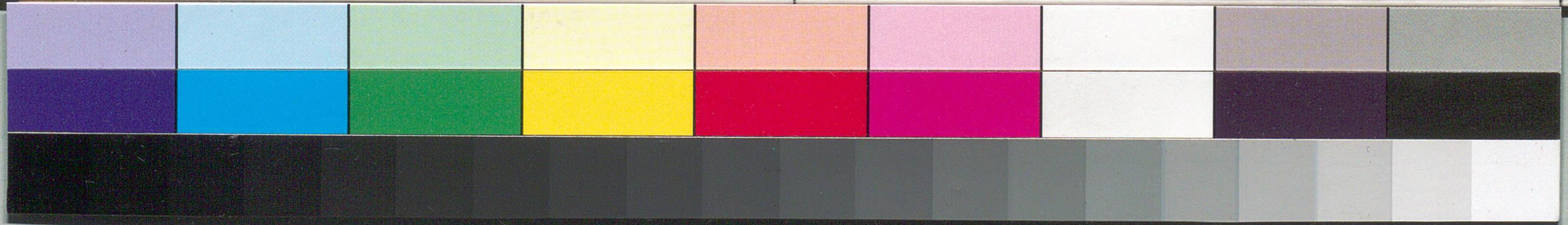
うとして居るのて有る機的活動變轉の有る
と云ふたを明瞭に了解せらるゝの有る
第六節 第四節で 前にも言ふ如く論部を經典の中
に包含せらるる居る所の意味を解釈せらる
以て其本分として居るの有る印度の諸著
薩の著しし所の各種の論も又佛教の支那
にも漸して後支那の諸師の著しし所の各種
の論やら各種の註疏やらにも随分感服を可
し議論解釈の澤山有る

東洋原裝



の風習不有と見て夫の有名なる婆伽梵歌
即ちバガバトキータの如きもマハバラタ叙
事詩の中の一曲として「ヴィシヌ」と云ふ神の化
現なるキリシナガパニヤラの戦場をクル
族の勇士アルジナニ對しての談話を託して
ウヰタニタ哲学の汎神論やリヨガ哲学の冥想
論やら數論哲学の二元論やら勝論哲学の多
元論やると合釋調和しやると多る大義論々
其中包含せしめて有るの不有る
其れ不有るありして夫の華嚴經の如きも実
に佛敎哲学の玄義を完全な充分な遺憾無く
發揮ししるもの不有るけきとも一個所も抽
象的なる哲理として説明しと所々無い皆佛
菩薩の玄妙不可思議なる神通妙用として叙
述しと有る法華維摩經なりとも皆同一やうな
叙述法不有る而して此玄妙不可思議なる佛
菩薩の神通妙用を佛敎哲学の玄義の抽象
的の哲理の研究して見れば皆此全宇宙一
切万有の根本的原理が必然として具有する
所の力用は依く表現せらるる所の各種の契

東洋堂製



と譯出トのトの有ると言ふと不隨分大
快詩浩瀚トのトの有る志のトなり是等の經
文の中トも往々散文不一應叙述トのトと頌文
不詩續ト返トのト所トのトの有るのを見よが元來簡
潔トのト即ち種曲トと文學の發達は隨ト
て散文トのト敷演トのトの知れぬ
そこが佛教中の三教藏即ち經律論は既に簡單
よ詩言トのト經典を佛教の教義と直説法は
さらりと説いトのト律部も佛教の禁戒と叙
列トのト論部を感と通釈と云ふて佛教一
般トのト或を別釈と喜トのト經典は既に
其意味と解釈トのトの有る
第五節 然るに佛教の經典を研究するは既に
深く注意せぬとならぬとあるは佛教の「ト
」別して大乘經典も大抵皆雄大莊麗なる叙
事詩的体裁の之と叙述して其雄大莊麗なる
叙事詩的叙述の中は高尚深遠雄偉豁大なり
佛教哲學の玄義を包含せしめ有るものと下
有る
是を佛教の「ト」下とせく印度古代文學一般

東林堂製

